製品安全データシート

酢酸ヘキシル（Hexyl Acetate）

作成 : 2018/9/4
改訂 : 2025/7/11

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称	酢酸ヘキシル
会社名	Eternis Fine Chemicals UK Ltd.
住所	Macclesfield Road, Leek, Staffordshire ST13 8LD UK
担当部署	
担当者（作成者）	
電話番号	+44 (0) 1538 392180
FAX番号	
メールアドレス	sdsadvice@eternis.co.uk
緊急連絡先番号	+44 (0) 1273 289454
販売代理店	サンケミカル株式会社
住所	東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号　三報ビルディング
電話番号	03-3661-6681
FAX	03-3661-7055
メールアドレス	yano@sun-chemical.co.jp
HP	http://www.sun-chemical.co.jp/

推奨用途及び使用上の注意

香味料。工業的応用。

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

物理化学的危険性:

引火性液体	区分3

健康に対する有害性: 区分に該当しない

環境に対する有害性: 区分に該当しない

分類	内容
区分1～4	数字が小さい方が危険･有害性が高い。1（危険）＞4（比較的安全）
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。 例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語　　警告

● 危険有害性情報

H226　引火性液体及び蒸気。

● 注意書き

【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。

P210	熱／ 火花／ 裸火／ 高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
P233	容器を密閉しておくこと。
P240	容器を接地すること／ アースをとること。
P241	防爆型の電気機器を使用すること。
P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋／ 保護衣／ 保護眼鏡／ 保護面を着用すること。
P303+P361＋P353	皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／ シャワーで洗うこと
P370+P378	火災の場合：消火をするために泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤又は水霧を使用すること。
P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P501	国の規則に従って内容物／ 容器を廃棄すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	工業純品
化学名又は一般名	酢酸ヘキシル
慣用名・別名	酢酸ヘキシルエステル, n-ヘキシル酢酸, ヘキシル酢酸塩
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	142-92-7
成分及び濃度又は濃度範囲（含有率）	≧99%
官報公示整理番号（化審法、安衛法）	2-734
GHS分類に寄与する成分	無し
REACH登録番号	01-2119976337-25-0000
トルコREACH	05-0000174105-27-0000

物質	cas	含有量	備考
酢酸	64-19-7	0.03%	不純物

▲ 項目4 応急処置

吸入した場合　被災者を汚染源から移動させること。被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。気道を開いた状態に維持すること。襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。呼吸が困難な場合には適切な訓練を受けた人員が酸素投与を行って被災者を補助してもよい。
意識のない者は横向きの回復体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。

皮膚に付着した場合　水で洗うこと。

眼に入った場合　直ちに多量の水で洗うこと。コンタクトレンズがあれば取り外し瞼を大きく広げること。
少なくとも10分間洗い続けること。

飲み込んだ場合　口を水で十分にすすぐこと。入れ歯があれば取り外すこと。小さなコップ数杯分の水または牛乳を飲ませること。嘔吐すると危険な場合があるので被災者が嘔吐しそうになったら止めること。医療関係者の指示がない限り無理に吐かせてはならない。嘔吐した場合には、嘔吐物が肺に侵入しないよう頭を低くしておかなければならない。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。意識のない者は横向きの回復体位に寝かせて呼吸を確認すること。気道を開いた状態に維持すること。
襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

記載されている症状の重症度は濃度および暴露の長さに依存して変化する。

吸引　長期にわたる高濃度の吸入は呼吸器系に損傷を与えるおそれがある。

経口摂取　胃腸症状、胃のむかつきを含む。胃の内容物からのフュームを吸入し、
吸入した場合と同じ症状を招くことがある。

皮膚接触　長期にわたり接触すると皮膚の乾燥を引き起こすおそれがある。

眼接触　一時的な眼刺激を引き起こすおそれがある。

応急処置をする者の保護　応急処置を行う者は救助活動中は常に適切な保護具を着用しなければならない。

医師に対する特別な注意事項
症候に基づいた処置を行うこと。

毒劇物の場合、解毒剤　非該当

項目5 火災時の措置（職場のあんぜんサイトより引用）

消火剤　泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤　棒状放水、水噴霧

火災時の措置に関する特有の危険有害性
極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
消火後再び発火するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある

特有の消火方法
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

項目6　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切に訓練されていない場合または何らかの人的リスクを伴う場合にはいかなる活動も行ってはならない。
不要な人員および保護されていない人員を漏出物から遠ざけること。
この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。
この安全データシートに記載されている安全取扱いに関する注意事項に従うこと。漏出物の取扱い後は充分洗うこと。
緊急時の汚染除去および廃棄の手順および訓練が適切であることを確認すること。漏出した物質に触れたりその中に踏み込んだりしないこと。
区域から避難すること。適切に換気すること。漏出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。
直ちに汚染された全ての衣類を脱ぐこと。

環境に対する注意事項

水にわずかに溶解性。水性毒性の発生する可能性は低い。
しかしながら、大量または頻繁な流出は環境に対して危険有害性影響を及ぼすおそれがある。不燃性、吸収性の材料に流出物を吸収させること。
水生環境への放出を防止すること。大規模流出: 環境汚染（下水道、水路、土壌または大気）が発生した場合には関係官庁に報告すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。直ちに流出物を片付けて廃棄物を安全に廃棄すること。安全に対処できるなら着火源を除去すること。流出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。爆発のリスクがあるので、物質が密閉空間に入らないようにすること。風上から流出物に近づくこと。小規模流出: 流出物を不活性の、乾燥した物質に吸収させてから適切な廃棄物処理容器に入れること。大規模流出: 漏洩を止められない場合には、区域から避難すること。流出した物質を排水処理場に洗い流すか、以下の通りに処理すること。砂、土またはその他の不燃材料で流出物を封じ込めて吸収させること。廃棄物をラベルの貼られた、密閉容器に入れること。環境規則を遵守しながら、汚染された物体および区域を入念に浄化すること。汚染された吸収剤は流出した物質と同じ危険有害性を示すおそれがある。汚染された区域を多量の水で洗い流すこと。流出物の取扱い後は十分洗うこと。現地の廃棄物管理当局の規定に従い認可された廃棄物廃棄物投棄地点に廃棄物を廃棄すること。

二次災害の防止策

▲ 項目7　取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気、全体換気）
「8．ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
「8．ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

製造業者から提供される推奨事項を読みこれに従うこと。この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。飲食物、動物用飼料から離して保管する。漏出を最小限に抑えるためにすべての包装および容器を慎重に取り扱うこと。使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。ミストの形成を避けること。製品は可燃性/引火性である。熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。取扱中に引火性／爆発性の蒸気－空気混合物を生成することがある。蒸気は床の上および低所に蓄積するおそれがある。防爆型の電気機器、換気装置及び照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気に対する予防措置を講ずる。水生環境への放出を防止すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。保護具を着用せずに破損した容器を取り扱わないこと。空の容器を再使用しないこと。

接触回避　「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

皮膚が汚染された場合は直ちに洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。各作業シフトの終了後および飲食、喫煙およびトイレの使用前に洗うこと。毎日作業場を出る前に作業服を交換すること。

洗眼ステーションおよび安全シャワーを設けること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。装置および作業区域を毎日掃除すること。優良個人衛生手順を実行しなければならない。各作業シフトの終了後および飲食、喫煙およびトイレの使用前に洗うこと。取扱中は飲食禁止および禁煙。産業医による予防医学健診を実施しなければならない。製品のあらゆる危険有害性特性について浄化要員に警告すること。

保管

安全な保管条件
混触危険物質(項目10を参照)から遠ざけて保管すること。現地の規則に従って保管すること。
すべての点火源を排除すること。静電気に対する予防措置を講ずる。容器および移送
装置をアースして静電気による火花を排除すること。酸化性物質、熱および炎から遠ざけておくこと。
最初の容器中でのみ保管する。容器を密閉して換気のよい冷所に保管する。
容器を立てておくこと。容器が破損しないよう保護すること。保管設備の周囲に防液堤を築いて流出時の水質汚染および土壌汚染を防止すること。
保管区域の床は漏れない、継ぎ目のない非吸収性のものでなければならない。

近づけてはいけないもの
IBCは直射日光や高熱の場所を避けて保管してください。

安全な保管保管包装材料
Suitable storage material - 316 Stainless Steel. 亜鉛めっきした金属は使用しないでください。適切なシール - パーフルオロエラストマー (カルレッツ)。適切なガスケット - 316ステンレス鋼または石綿の使用されていないアラミド繊維合成物でサポートされているグラファイト。貯蔵タンクにはフレームトラップが必要です。排水管および/または水路への放出を防止するために他と区別され防液堤で囲まれた区域に保管すること。特に水がある場合に、製品がコンクリートの表面を侵蝕する可能性があります。

▲ 項目8　暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005 年版)	未設定
ACGIH(2005 年)	未設定

DNEL
導出無毒性量

職場	吸入	長期	全身効果	48 mg/m3
職場	吸入	長期	局所効果	48 mg/m3
職場	経皮	長期	全身効果	14 mg/kg

PNEC
予測無影響濃度

淡水	0.0044 mg/l
海水	0.0044 mg/l
断続的放出	0.044 mg/l
堆積物(淡水)	0.144 mg/kg
堆積物(海水)	0.014 mg/kg
標準状態	1 mg/l
土壌	0.026 mg/kg

設備対策

適切に換気すること。換気または他の管理手段の効果および／または呼吸用保護具の必要性を判定するために個人、職場環境または生物学的なモニタリングが必要になる場合がある。
一次手段として行程囲壁、局所排気装置またはその他の設備対策を使用して労働者の暴露を最小限に抑えること。
個人保護装置は設備対策措置で労働者暴露を適切に防止できない場合にのみ使用すること。
防止手段の定期的な検査と保守が行われていることを確認すること。
労働者が暴露を最小限に抑えるよう訓練されることを確認すること。
設備対策にはガス、蒸気または粉塵濃度を爆発下限界濃度未満に維持することも要求される。
防爆型の換気装置を使用すること。

保護具

呼吸用保護具 リスク評価により汚染物質を吸入する可能性が指摘された場合には承認された規格に適合した呼吸用保護具を着用すること。
全ての呼吸用保護具が意図した使用に適していることを確認すること。
呼吸マスクが顔面に密着することおよびフィルタが定期的に交換されていることを点検すること。
意図した使用に適した吸収缶および防塵機能付き吸収缶を使用しなければならない。
意図した使用に適した交換可能な吸収缶を装備したフルフェイス式呼吸用保護具を使用しなければなら
意図した使用に適した交換可能な吸収缶を装備したハーフマスク式および
クォータマスク式の呼吸用保護具を使用しなければならない。

手の保護具 リスク評価により皮膚接触の可能性が指摘された場合には承認された規格に適合した耐薬品性の、不浸透性手袋を着用しなければならない。
手袋の材料の破過時間に関する情報を提供することができる手袋供給業者/製造業者と協議して、最も適切な手袋を選択しなければならない。
手を化学物質から保護するには、手袋はJIS T8116: 2005に適合していなければなない。
手袋の製造業者が明記したデータを考慮し、使用中に手袋が保護性を維持しているかを確認して何らかの劣化が認められた場合には直ちに交換すること。頻繁に交換することが推奨される。

眼の保護具 リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。
眼および顔面を適切に保護する個人用保護具を着用しなければならない。
リスク評価によりより高度な保護の必要性が指摘された場合を除き、以下の保護具を着用しなければならない: 顔面に密着する安全眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

リスク評価により皮膚汚染の可能性が示された場合には承認された規格に適合した適切な履物および追加的な保護衣を着用しなければならない。

特別な注意事項

使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状態	液体
色	無色透明
臭い	果実臭
融点・凝固点	-80° C/-112° F
沸点又は初留点及び沸騰範囲	170.6° C/339.0° F @ 101.3 kPa
可燃性	データ無し
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	58° C/136° F、試験方法: ペンスキーマルテンスクローズドカップ。
自然発火点	242° C/468° F
分解温度	データ無し
pH	データ無し
動粘性率	データ無し
溶解度	0.43 g/l 水 @ 19.7° C/67.5° F
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	log Kow: 3.3
蒸気圧	0.144 kPa @ 20° C/68° F
密度及び/又は相対密度	0.875 @ 20° C/68° F
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
粘度(粘性率)	1.17 mPa秒 @ 20° C/68° F
爆発特性	製品中に爆発性と関連する化学基は一切存在しない。
酸化特性	製品中に酸化性と関連する化学基は一切存在しない。
その他の情報	
その他の情報電気伝導度: 0.02 μS/cm	ガスグループおよび温度クラス: グループIIB クラスT3。
分子量	144.21

● 項目10 安定性及び反応性

反応性　水にさらされると、対応する酸やアルコールに徐々に加水分解します。
化学的安定性　標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。規定された保管条件下では安定

危険有害反応可能性　次の物質は製品と強く反応するおそれがある: 酸化剤。

避けるべき条件
（静電放電、衝撃、振動など）

熱、火花およびその他の着火源を避けること。
過剰な圧力増大が生じるので、容器は加熱すると激しく破裂または爆発することがある。
静電気および火花の発生を防止しなければならない。
容器を加圧、切断、溶接、穴開け、研削したり熱や着火源に暴露しないこと。

混触危険物質　酸化性物質。

危険有害な分解生成物　推奨事項に従って使用および保管した場合には分解しない。
熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある: 有害なガスまたは蒸気。

その他

★ 項目11 有害情報

急性毒性

（LD50 mg/kg） 41,500.0
生物種　ラット

備考（経口LD_{50}）　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

急性経口毒性推定値　41,500.00
（ATE）（mg/kg）

急性毒性－経皮
急性経皮毒性（LD50 mg/kg） 5,000.0
生物種　ウサギ

備考（経皮LD50）　利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

急性経皮毒性推定値（ATE）（mg/kg） 5,000.0

急性毒性－吸入
備考（吸入LC50）　LC_{50} 15300 mg/m3, 吸入, ラット 6 hours

皮膚腐食性/皮膚刺激性
動物データ　用量：0.5mL、4 時間、ウサギ 紅斑/かさぶたスコア：非常にわずかな紅斑ーかろうじて認識可能(1)。浮腫スコア：非常にわずかな浮腫ーかろうじて認識可能(1)。読み取り法データ。OECD 404。刺激性でない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
用量：0.1mL、＜7 日、ウサギ 角膜スコア: 0 虹彩スコア: 0 結膜スコア: 0.11
結膜浮腫スコア: 0 読み取り法データ。OECD 405。刺激性でない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性
利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
パッチテスト ヒト 感作性無し。

生殖細胞変異原性
エームス試験: 陰性。OECD 471。読み取り法データ。染色体異常: 陰性。OECD 473。
読み取り法データ。

発がん性
利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
IARC発がん性　記載されていない。

生殖毒性
発生毒性: - 無毒性量（NOAEL）: 200 mg/kg KW/日, 経口, ラット OECD 414。読み取り法データ。
発生毒性: - 無影響濃度（NOAEC）: 3800 mg/m3, 吸入, ラット 読み取り法データ

特定標的臓器毒性、単回曝露
単回暴露後の特定標的臓器毒性には分類されない。

特定標的臓器毒性、反復曝露
無影響濃度（NOAEC） 2400 mg/m3, 吸入, ラット EPA OTS 798.2450.

（STOT）－反復ばく露
標的臓器　消化管 肝臓 膵臓 胆嚢

吸引性呼吸器有害性
化学構造に基づき、吸入性呼吸器有害性は予想されない。

誤嚥有害性　データ無し

その他

吸引　長期にわたる高濃度の吸入は呼吸器系に損傷を与えるおそれがある。

経口摂取　胃腸症状、胃のむかつきを含む。胃の内容物からのフュームを吸入し、吸入した場合と同じ症状を招くことがある。

皮膚摂取　長期にわたり接触すると皮膚の乾燥を引き起こすおそれがある。

眼接触　一時的な眼刺激を引き起こすおそれがある。

ばく露経路　経口摂取 吸入 皮膚および/または眼との接触

標的臓器　特有の特定標的臓器は知られていない。

項目12　環境毒性情報

生態毒性

急性毒性－魚類LC_{50}, 96 時間: 4.4 mg/l, Pimephales promelas（ファットヘッドミノー）
OECD 203。

急性毒性－水生無脊椎動物EC_{50}, 48 時間: 9.1 mg/l, Daphnia magna（オオミジンコ）
OECD 202。

急性毒性－水生植物EC_{50}, 72 時間: 12 mg/l, Pseudokirchneriella subcapitata
無影響濃度（NOEC）, 72 時間: 2.7 mg/l, Pseudokirchneriella subcapitata
OECD 201。

急性毒性－微生物EC_{50}, 30 分: 100 mg/l, 活性汚泥
無影響濃度（NOEC）, 30 分: 100 mg/l, 活性汚泥
OECD 209。

残留性・分解性
物質は易生物分解性である。

生分解
OECD 301D。

生態蓄積性
生物濃縮係数（BCF）: 70, 魚類 計算方法。
分配係数

土壌中の移動性
移動性　製品は一部水溶性であり水性環境中に広がるおそれがある。
吸着／脱着係数　土壌 - Log Koc: 2.47 @ 30° C/86° F OECD 121。
表面張力　26 mN/m @ 20° C/68° F

オゾン層への有害性
データ無し

他の有害影響
知られていない。

▲ 項目13　廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の生成を最小限に抑えるか可能であれば避けなければならない。
可能ならば製品を再使用または再利用すること。この物質および容器は安全な方法で廃棄する。
この製品、プロセス溶液、残渣および副産物の廃棄は常に環境保護と廃棄物処理に関する法令の要件および
全ての地方管轄当局の要件を遵守して行わなければならない。
廃棄物を取り扱う際には、製品の取り扱いに適用される安全措置を考慮しなければならない。
十分に洗浄もしくは水洗いしていない空容器を取り扱う際には注意を払わなければならない。
空の容器または内張りには多少の製品残渣が付着していることがあるため危険有害性の可能性がある。

排水路に流してはならない。
余剰製品および再利用できない製品は認可を受けた廃棄物処理請負業者を介して廃棄すること。
廃棄物、残渣、空の容器、捨てられた作業着および汚染された浄化材料は指定された容器に集め、
内容物を示すラベルを貼らなければならない。焼却または埋め立ては再利用が不可能な場合にのみ検討すること。
残留した製品からの蒸気は容器内に引火性の高いガス体または爆発性のガス体を生成させるおそれがある。
爆発のリスクがあるので容器は廃棄前に完全に空にしなければならない。
内部を十分に洗浄している場合を除き使用済み容器を切断または溶接しないこと。

項目14　輸送上の注意

国際規制	
国連番号	3272
品名（国連輸送名）	エステル類、他に品名が明示されていないもの（含有物 酢酸ヘキシル） ESTERS, N.O.S. (CONTAINS Hexyl acetate)
国連分類 （輸送における危険有害性クラス）	3
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質 （該当・非該当）	該当 Y類
MARPOL73/78附属書Ⅱ及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 （該当・非該当）	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	
国内規制がある場合の規制情報	
その他	
応急措置指針番号	128（16716の化学商品より） 130（職場のあんぜんサイトより）

項目15　適用法令
該当法令の名称及びその法令に基づく規制の関する情報

化管法	現状非該当。第一種指定化学物質　1-159（2023年4月1日以降は該当）
安衛法	施行令別表第1危険物（引火性のもの） 2024年12月　通知表示対象物質　非該当 2026年4月以降　通知表示対象物質　該当
毒劇法	非該当
消防法	第4類第2石油類非水溶性液体（1,000L）
化審法	既存化学物質
船舶安全法	危規則第2条危険物等級3引火性液体類（正3容器等級3）
航空法	施行規則第194条危険物引火性液体（G等級3）
バーゼル法	特定有害廃棄物等（0.1％重量以上含む物）
外為法	輸出令別表2の35の2項（0.1重量％以上含む物） 別表1の16項　キャッチオール規制
港則法	施行規則第12条危険物（引火性液体類）

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

項目16　その他の情報
安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報
引用文献

SDS　Tennnants Fine Chemicals 2018年2月5日
独立行政法人　製品評価技術基盤機構　NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版　16716の化学商品

その他

注意:
・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、
注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取扱いを対象としたものです。
・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。
また法令の改正及び新しい知見に基いて改訂されることがあります。

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け 2019年改正JIS Z7252/Z7253			(但し、ラベルに全て載せる必要はない)